

## 山行報告：両神山 尾ノ内沢道～天武将尾根

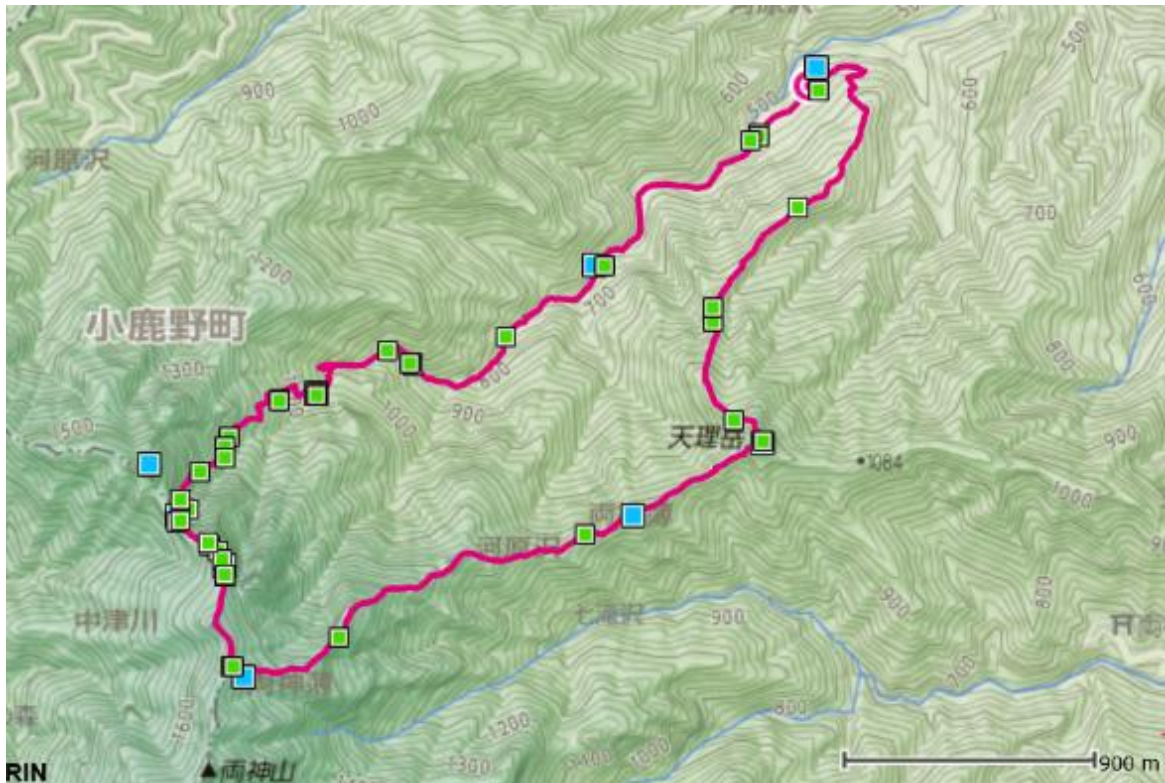
【山 域】 北秩父

【日 程】 2017年7月2日（日）前夜発日帰り 【天候】 高曇り

【参加者】 CL 柘植（記録）、SL 澤田路、藺田、薄井

【記 録】 もともとは足尾の笹ミキ沢を計画していたが、北関東は雨続きで水量の懸念もあったため、予備案の両神山：尾ノ内沢道～東岳～天武将尾根の周回縦走とすることにした。

尾ノ内自然ふれあい館駐車場 5：45→油滝 7：45→9：45 稜線(龍頭神社奥社 10：00→東岳→天武将尾根下降点 11：20→天理岳 13：45→15：45 尾ノ内自然ふれあい館駐車場



前夜は小鹿野町の道の駅龍勢会館で仮眠、日曜は4時半起きで出発、尾ノ内自然ふれあい館の駐車場から歩き始める。ここは冬場の氷柱見学では有名なところらしく、最初のほうだけだが立派な遊歩道が整備されていた。



溪谷道のスタート地点



最初のクサリ場（キギの沢出合付近）



遊歩道がなくなると道は結構怪しい部分が出てくるが、赤テープがしっかりあるので迷うことはない。油滝という水が音もなく滑り落ちる滝を過ぎると本格的な登りが始まる。ただこれまでの沢沿いの不明瞭で急な山腹のトラバースではなく斜面を登るので、むしろ道は明瞭となってくる。



油滝前で休憩



地獄穴は穴というよりスキマ



いやらしいトラバース



つかの間の憩いの場

地獄穴という穴ではなく、岩のスキマを過ぎると、針金やクサリが出てくるが大半はとくに掴まなくても通過できる。さすがに稜線直下は両神山ならではの岸壁状になりクサリの連続で稜線に飛び出る。展望が一気に開け、前方には奥秩父の山々、背後には西上州の山々と浅間山がよく見えた。



尾ノ内沢道の終了地点（警告板あり）



龍頭神社奥社で休憩（遠景は赤岩尾根）





稜線縦走その1



稜線縦走その2

東岳のテーブルで大休止して、天武将尾根の下山口に向かう。ここには「立ち入りは自己責任で」みたいな警告板とロープが張り巡らされていた。柘植は天武将尾根は5年前に日向大谷から登ったことがあり、天理岳で下降ルートの間違って手こずった記憶があるが、そこから先、稜線まではほとんど記憶がない。今回は下降なのでちょっと勝手が違うが、概ね問題なく天理岳まで到着できた。天理岳から尾ノ内自然ふれあい館まではじめてのルート。天理岳とはよほど相性が悪いのか、今回もルート探しに結構時間がかかってしまった。しかし一旦目的の尾根に入れば赤テープや金属プレートがところどころにあり、ルートファインディングはそれほど困難ではない。



天武将尾根から：手前二子山と遠く御荷鉾山



天理岳北尾根の下降

ただこのあたりまでくると歩行時間も8時間をすぎ、今日の暑さでみんなバテぎみ。水も残り少なく、下についたら何を飲みたいみたいな話に盛り上がるが、そのうち口を開く気力もなくなり、みんな無口になってくる。そのうち尾根末端の送電鉄塔が見えてくる。ここまでくればシメたもの、最後は巡視路をたどって車道に降り立ち、感動の握手。駐車場はすぐで、全員自動販売機に直行、思う存分に好みのドリンクを飲み干した。もう汗だく、ズボンは泥まみれという状態で、両神温泉薬師の湯で汗を流して帰路に着いた。このコースは10時間くらいかかるかなと思っていたが、ジャスト10時間で帰還した。高温多湿という悪条件もあるが、全体としては大きく手ごわい登下降が続く尾根で全員へろへろに近い状態、もう当分こういう山行はいいやというのが全員の偽らざる意見であった。

### 【ヒヤリハット】

油滝～稜線のあいだのトラバース道で柘植が路肩を踏み外して、斜面を1.5mくらい転げ落ちた。

幸い藪に引っかかって止まったが、急峻な両神山の斜面だけに引っかかったのは幸運以外にない。原因は細いトラバース道の左足を踏み出した部分が崩れたことだが、注意不足であった。最近バランスを崩したときの耐力も落ちている実感があり、自分なりの対策が必要と思う。幸い怪我もなく無事であったが、眼鏡が飛んでしまい、同行者に探してもらったが見つからなかった。これも通常ヤブ岩ルートでは眼鏡バンドで飛ばないようにしていたのだが、今回は怠っていた。ただ予備の眼鏡を持っていたので、その先の行程を消化できたが、反省の多い事故であった。

報告担当：柘植